

松山市への 分水問題を 考える

松山市が西条市に対して理解と協力を求める県営黒瀬ダムの分水問題について、市では1月24日に「水資源対策調査研究会」の初会合を開き、工業・農業用水、飲料水など市内における今後の水需要について調査していくことを決めました。

今後、市では調査結果を順次市民の皆さんへ情報発信し、皆さんのご意見等を踏まえた上で、この問題に対して検討を行っていきたいと考えています。

—— 松山市への分水問題について、皆さんのご意見をお待ちしています ——
水資源対策調査研究会（市庁舎別館1階環境課内） TEL0897-52-1221
〒793-8601 明屋敷164 FAX0897-52-1294 e-mail kankyo@saijo-city.jp

Q1 黒瀬ダムの建設目的は何ですか？

A1 黒瀬ダムは加茂川の洪水を調整するため、そして不特定用水【※1】と工業用水を確保するために、愛媛県が多目的ダムとして建設し、1973（昭和48）年3月に完成しました。

1981（昭和56）年からは、住友共同電力（株）（黒瀬発電所）が発電を目的として参加しています。

【※1】不特定用水は、加茂川下流の耕地に干ばつ時の農業用水の補給を行うとともに、河川維持用水の安定を図ることを目的としています。

Q2 黒瀬ダムの建設のために水没した家は、どのくらいあるのですか？

A2 黒瀬ダムの建設によって109戸（113世帯）が水没しました。世帯の集団移転先として、楠河干拓地に15世帯、飯岡に造成された団地（現黒瀬団地）に31世帯が入居しました。



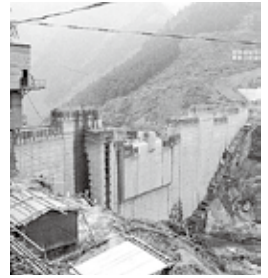
水没前の黒瀬地区

Q3 黒瀬ダムの建設費はいくらだったのですか？

A3 黒瀬ダムの建設事業費は、46億8,000万円です。そのうち25億8,700万円（55.27%）が工業用水事業費として負担されました。

▼ 黒瀬ダム建設事業費の内訳 ▼

項目	事業費
本工事費	19億9,800万円
測量・試験費	5,900万円
用地費・補償費	22億800万円
機械器具費	900万円
営繕費	2,100万円
事務費	3億8,500万円
合計	46億8,000万円



▲建設当時の黒瀬ダム

Q4 工業用水として使われている黒瀬ダムの水は、直接取水しているのですか？

A4 工業用水の水は黒瀬ダムからではなく、加茂川の長瀬取水堰から取水しています。取水された水は、神戸地区（中野甲）にある浄水場に導水されています。

長瀬取水堰には、黒瀬ダムから放流された水と黒瀬発電所に送られた水のほかに、支流谷川からの表流水と住友共同電力（株）兎之山発電所からの放流水が合流して流れ込んでいます。



▲長瀬取水堰

Q5 西条市は加茂川の水利権【※2】を持っているのですか？

A5 西条市は加茂川の水利権を保有していません。加茂川で水利権を保有している団体は、兎之山土地改良区、神戸橋一部土地改良区、大町土地改良区、（株）クラレ、加茂川内水面漁業協同組合、愛媛県公営企業管理局の6団体です。

【※2】「水利権」は法律上の用語ではなく、「河川法」の中には出てきません。河川の流水を占有する権利が従来「水利権」という呼び名で定着しているため、この用語が使用されています。

Q6 加茂川の水利権はどうなっているのですか？

A6 加茂川からは、河川法第23条の流水を占有する権利を保有する団体が、目的や水量、場所などを定めて取水しています。

詳しくは、左の「加茂川利水現況図」をご覧ください。

※A1～A3の参考資料：黒瀬ダムパンフレット

